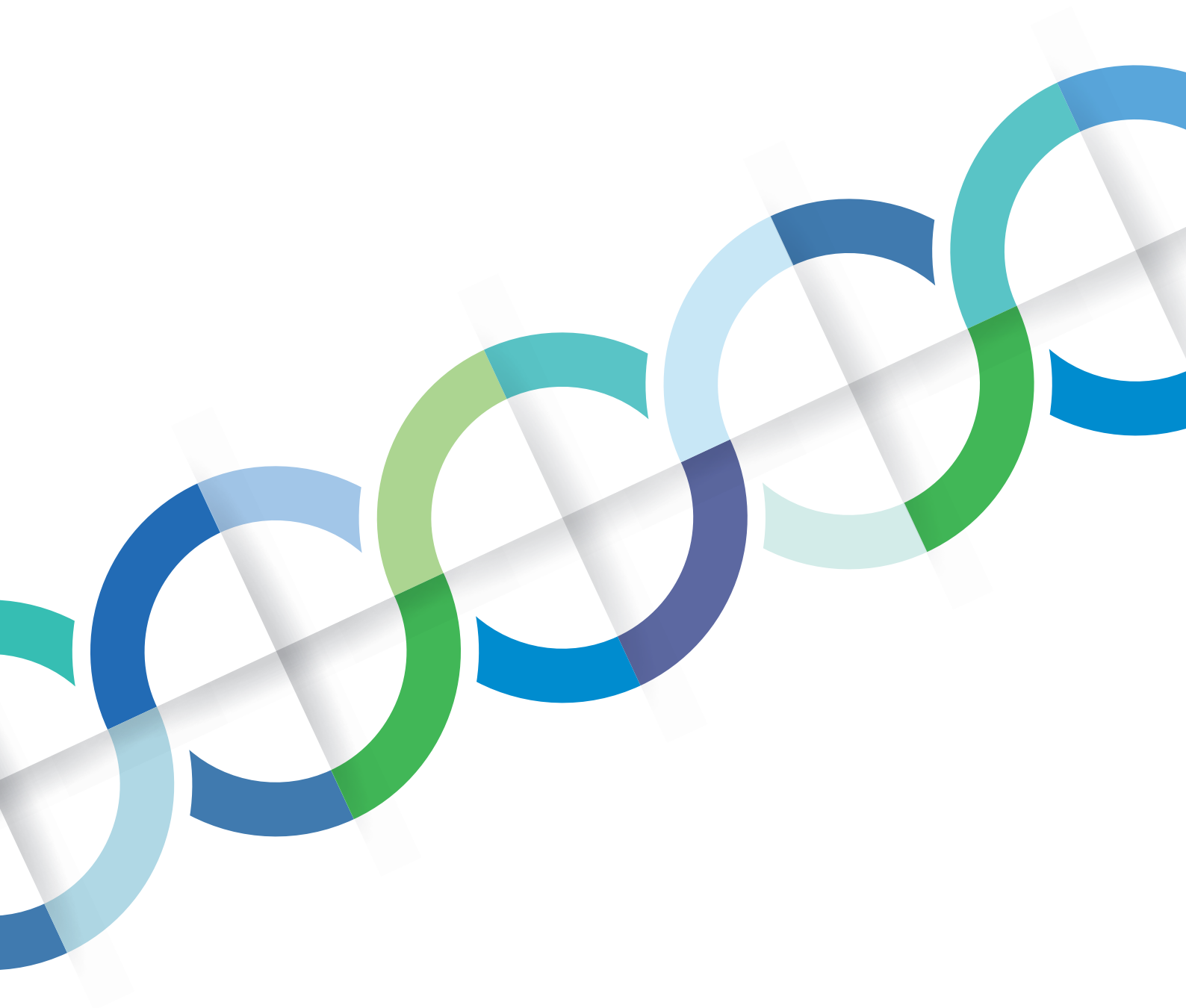


DESCENTE



デサントグループ
CSRレポート2019



はじめに

デサントグループは、社会との持続的な相乗発展のために、CSRに対する考え方や取り組みについてステークホルダーの皆様にお伝えし、ご理解いただくことを目的として「デサントグループCSRレポート」と「Webサイト」を作成しています。

「Webサイト」は、CSR活動全般について網羅的に掲載し、検索性に配慮しています。

本書「デサントグループCSRレポート」は、自社で重要度が高いと判断した内容をISO26000（国際標準化機構が定めた、組織の社会的責任に関する国際規格）を参照しご報告するとともに、SDGs（持続可能な開発目標）に通じる考え・取り組み・試みについても、より多くの皆様にお読みいただきたいテーマを取り上げています。

本書が、読者であるステークホルダーの皆様にとって、デサントグループが果たすCSRへのご関心・ご理解の一助となれば幸いです。

企業理念

企業理念は社会における「DESCENTEの存在意義」であり、社会との関わりを表したビジョンです。

『すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを』

スポーツ本来の「体を動かす楽しさ」、「競い合う楽しさ」を提供することで
一人一人のいきいきとしたライフスタイルの創造に貢献します。

デサントCSR基本方針

1. デサントグループは、企業理念に基づき、スポーツを通じて人々の身体と心を豊かにし、健全なライフスタイルの創造に貢献します。
2. デサントグループは、経済・社会及び環境との関わりの中で求められる期待に、事業活動を通じて応えることによって、社会とともに持続的な相乗発展を目指します。
3. デサントグループは、「デサントグループ倫理綱領」に基づき、国内外において人権を尊重し、関連法令及び国際ルールを順守しつつ、高い倫理観と向上心を持って行動します。

デサントのCSR活動

誠実な
企業活動

人権の尊重

従業員との
かかわり環境との
調和公正な
事業慣行お客様との
かかわり地域社会との
かかわり

デサントグループ CSRレポート 2019：目次

| | |
|---|----|
| トップメッセージ | 2 |
| 環境保全への積極的な取り組み | 3 |
| サプライチェーンマネジメント | 5 |
| コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス | 7 |
| 従業員とのかかわり | 9 |
| お客様とのかかわり | 12 |
| 持続可能性への挑戦：「モノを創る力」と「売場を創る力」 第2回 品質事故情報展を開催 | 13 |
| 地域社会とのかかわり | 15 |
| 「すこやかキッズ スポーツ塾」2018年度の活動 | |

国連グローバル・コンパクトの一員として



デサントは、理念である「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野10原則を支持し、社会の良き一員として責任あるリーダーシップを発揮すると同時に、これから当社グループが一層のグローバル化を進めるうえで、基本となる行動指針として捉えていきます。そして、持続可能な地球社会の実現に貢献できるよう、より一層、積極的に活動していきます。

株式会社デサント
代表取締役社長 小関 秀一

報告の対象期間

2018年4月から2019年6月までを対象期間としています。

トップメッセージ

「スポーツを遊ぶ楽しさ」「カラダを動かす喜び」から持続可能性ある社会への貢献を!



株式会社デサント
代表取締役社長

こせき しゅういち
小関 秀一

デサントグループは、常に高い商品開発力を礎にした魅力ある商品を創り、スポーツを愛する多くのお客様に届けてきました。「モノを創る力」「売り場を創る力」をこれからも磨き続けるとともに、地球規模で求められてきた新たな「持続可能性」への挑戦を加速させます。

企業理念に基づく「スポーツを遊ぶ楽しさ」「カラダを動かす喜び」をより多くのお客さまに提供することで「ココロ」と「カラダ」が健康で笑顔あふれる豊かなライフスタイルの実現に貢献するとともに、2015年に署名した国連グローバル・コンパクトにおける4分野「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」への取り組みはもちろん、企業は社会の公器であることを再認識し、社会が抱える多くの課題解決にも貢献し続けるデサントグループを目指し、経営陣・従業員一人ひとりが「持続可能性」について考え、行動し、実現して参ります。

「クールジャパン」らしい持続可能性ある商品とサービスを世界に!



デサントジャパン株式会社
代表取締役社長

おがわ のりお
小川 典利大

スポーツの魅力は国境を越え、多くの人々に「夢」や「希望」、「感動」と「勇気」を与えてくれ、人と人の輪が世界に広がります。いよいよ、2019年から「ゴールドen・スポーツイヤーズ」が始まり、海外から多くの人々が日本を訪れます。

私たちは、緑あふれる自然豊かなこの日本という国で「スポーツを遊ぶ楽しさ」を通じ、人々の健康で豊かなスポーツライフスタイルの実現に貢献し続けてきました。より多くの人々がより長く「スポーツを遊ぶ」ことのできる社会や環境の実現に向け、その重要性をあらためて認識、理解し、自ら発言・行動しなくてはなりません。

2018年のサッカーW杯で日本代表のロッカールームやサポーターの皆さんが試合後に行った清掃活動が世界から「クールジャパン」として称賛されたことは、同じ日本人として美意識に対する感性と行動力を誇らしく感じました。私たち自身も社会の「持続可能性」を高く保つためのモノづくり、お客様への提供方法、自分たちの仕事の進め方を見つめ直し、経営陣と従業員全員が考え、行動し、「クールジャパン」のかけこよさを世界に発信して参ります。

スポーツを通じ、アクティブなライフスタイルの創造による社会貢献を!



DESCENTE KOREA LTD.
代表取締役社長

キム フンド
金 勳道

デサント코리아は、デサントグループ企業理念「すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを」に基づき、新たなスポーツライフスタイルを創造します。厳格な品質基準の策定とそれに基づく商品開発を推進し、スポーツトレンドを創造することで韓国のスポーツ市場をリードしており、またパートナーとの公正な取引関係を確立し、共存共栄のための協力関係を構築することで共に成長し、共通価値を実現していきます。

さらに、昨今、社会からの要求が高まってきた持続可能性への取り組みは、有害物質管理基準を制定し、釜山DISC^{※1}でのAFIRM^{※2}加盟を進め、デサントグループ全体への拡大の礎を築きました。また、環境にやさしい素材の使用を徐々に高めるなど持続可能性を念頭に置いた商品開発に努め、ほかにも2009年から続けている地球環境キャンペーンである「セーブ・ザ・ペンギン (SAVE THE PENUGIN)」を介した極地研究所、ユネップ (UNEP: 国連環境計画)、WWF (世界自然保護基金) などとのコラボレーションにより、地球環境や生態系研究について支援も行っています。また、スポーツでの社会貢献活動は、デサントスポーツ財団にて繰り広げており、より多くの人々がスポーツを遊び、楽しめる環境をつくってきました。

これからもトレンドをリードし、スポーツを通じた新たなライフスタイルの創造に挑戦することで社会に貢献し続ける企業になるため、最善を尽くして参ります。

※1 釜山DISC: DESCENTE INNOVATION STUDIO COMPLEX BUSANを指し、シューズの研究開発拠点として2018年10月、韓国・釜山に開設しました。

※2 AFIRM (Apparel and Footwear International RSL Management Group): アパレル・フットウェア国際RSL管理グループ、アパレルメーカーのサプライチェーンにおいて特定物質の使用を制限し、製品の品質と安全性の向上、さらに環境負荷の低減を目的としたガイダンスを毎年、作成しています。RSL (Restricted Substances List) は規制化学物質リストを表します。

環境保全への積極的な取り組み

デサントは、環境経営の指針として「デサント環境基本理念・デサント環境方針」を定めるとともに、取締役を中心に構成される「環境委員会」を設置しています。環境委員会のもとに環境保全活動を推進し、環境負荷・環境リスクを低減するとともに、それらの発生を予防するための行動を積極的・継続的に行っています。

環境基本理念と環境方針

▶「デサント環境基本理念」

デサントは、地球環境保全が最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のあらゆる面で積極的・継続的に環境保全に配慮して行動する。

▶「デサント環境方針」

デサント環境基本理念に基づき、環境保全活動を推進し、環境負荷・環境リスクを低減し、その発生を予防するための行動を積極的・継続的に行う為に、下記の事項を定める。

1. 環境保全活動を推進させるため、「環境委員会」を設置する。
2. 環境関連の法律・規制・協定等を遵守し、環境保全に取り組む。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減に、全ての領域で取り組む。
4. 事業活動が環境に与える影響を的確に捉え、技術的・経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定して全員で取り組み、その結果を見直して継続的改善・向上を図る。
5. 環境負荷低減型の商品開発、商品づくりを行う。
6. 環境監査を実施し、環境管理の維持向上に努める。
7. 環境教育を実施し、全従業員の環境方針の理解と、環境に関する意識向上を図る。
8. 環境基本理念、環境方針及び環境保全の実施状況については、必要に応じて公開する。

環境活動体制を強化

「デサント環境基本理念」「デサント環境方針」のもと、環境委員会を設置し、EMS[※]推進を図るISO分科会、およびCO₂削減活動を推進するEチャレンジ分科会にて取り組んでいます。

2018年度より、日本国内グループ会社の全事業所を対象に、CO₂排出量の実態把握をスタートしました。今後は順次、海外グループ会社まで範囲の拡大を目指し、グループ全体として、地球温暖化防止の取り組みに努めていきます。

※EMS: Environmental Management System (環境マネジメントシステム)

CO₂排出量の削減目標

2018年度のCO₂排出量目標は720t-CO₂。これは2017年度から6t-CO₂の削減目標でしたが、実績は655t-CO₂となり達成できました。2008年度から2018年度までで437t-CO₂の削減となりました。2018年度は前年の東京オフィスの空調設備改修により、電力量の削減を主に、CO₂の削減が図れました。削減に向けた日常の取り組みを維持するとともに各設備の効率を高める投資を進めていきます。

2018年度 国内事業所別CO₂排出量

単位:t-CO₂

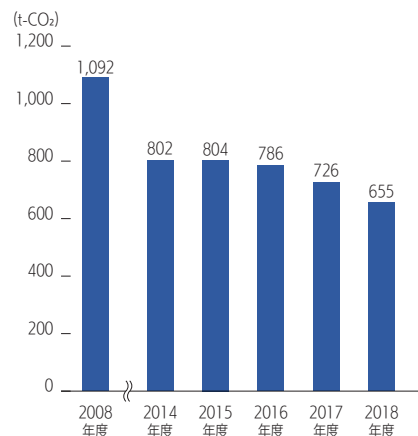
| 事業所名 | 実績 |
|--------|-------|
| 大阪オフィス | 280.2 |
| 東京オフィス | 349.0 |
| 札幌営業所 | 5.2 |
| 仙台営業所 | 4.8 |
| 名古屋営業所 | 10.4 |
| 広島営業所 | 1.8 |
| 福岡営業所 | 4.0 |
| 全社計 | 655.4 |

要素別排出量

単位:t-CO₂

| 要素 | 実績 |
|----|-------|
| 電気 | 460.9 |
| ガス | 178.0 |
| 水道 | 4.7 |
| ゴミ | 11.8 |
| 計 | 655.4 |

CO₂排出量の推移



環境保全の取り組み事例

▶『アリーナ』ブランドでスイミングゴーグルをリサイクル

2018年7月、『アリーナ』ブランドの使用済みスイミングゴーグルを回収するリサイクル活動を開始しました。回収されたゴーグルは、様々な廃棄物を回収し新たな製品として再利用する米国TerraCycle Inc.の日本法人テラサイクルジャパンを通じてリサイクルされると同時に、ゴーグルの個数に応じて「世界の人々が清潔な水を利用し、衛生的な環境で暮らすこと」を目指して開発途上で活動する特定非営利活動法人「ウォーターエイドジャパン」に寄付します。

▶『マンシングウェア』ブランドでの「SAVE THE PENGUIN」キャンペーン

ブランドアイコンのペンギンを絶滅危機から守るため、地球温暖化や環境悪化を抑制する目的で、19年春夏シーズンより「SAVE THE PENGUIN」キャンペーンを行っています。環境保全活動を行うNGO団体「WWF」(World Wide Fund for Nature:世界自然保護基金)^{※1}とのコラボレーションアイテムを販売し、対象商品の売上金の一部は同団体による地球環境保全に活用されます。

※1 WWF:人と自然が調和して生きる未来をめざし、100カ国以上で活動する地球環境保全団体

▶デサント코리아での「SAVE THE PENGUIN」キャンペーン

デサント코리아では「より健康な地球のためにペンギンを救え」をスローガンに、全ブランドを対象を広げて2019年5~6月にキャンペーンを展開。WWFとの提携により、「日常生活におけるプラスチック使用量の削減」をテーマに、SNSを活用した募金活動「Relay Challenge」のほか、各ブランドで環境に配慮したTシャツをエコテックス認証^{※2}工場生産し、ブランドアイデンティティにふさわしいプロモーション活動を行いました。また、このキャンペーン期間中には、取り組みを開始した2009年から毎年、全従業員が街頭での清掃活動を継続するとともに、2018年度は約150名が植樹活動にも参加するなど、積極的に取り組んでいます。

※2 エコテックス(OEKO-TEX[®])認証:繊維製品に関して世界最高水準の安全基準を定め、サステナブルな生産を目指す認証制度。スイス本部のほか、日本を含め世界で18の認証機関がある。



▲2018年7月、「第1回アジアマスターズ 兼 第35回ジャパンマスターズ」会場で回収を呼び掛ける、北島康介氏(左)



▲コラボレーションアイテム(男性モデルのカットソー・半袖シャツ・キャップ、女性モデルのカットソー・バッグが該当商品)



▲各ブランドのキャンペーン用Tシャツ・バッグ



©1986 Panda Symbol WWF
®"WWF" is a WWF Registered Trademark

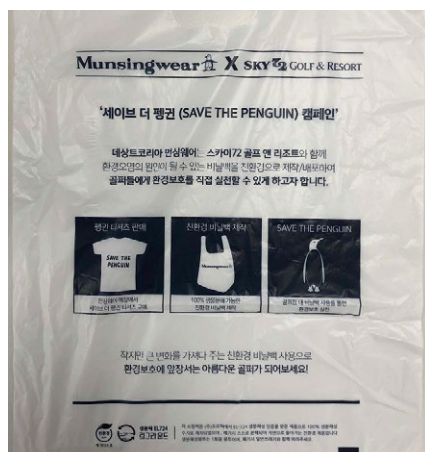
▲アイテムのタグに付く、WWFを象徴するパンダロゴ



▲キャンペーンTシャツを着て自分たちの街をきれいに



▲自転車を活用すれば清掃の範囲も広がる



▲『マンシングウェア』エコバッグ

サプライチェーンマネジメント

デサントは、サプライヤーの皆様と公正なパートナーシップを築き、人権や労働条件の改善、環境保全に協力し、共に発展していきたいと考えます。そのために、すべての仕入先と「デサント・サプライヤーCoC(取引行動規範)」の誓約を交わし、また工場のCSR監査も実施しています。

2018年度 第三者機関によるCSR監査結果

2018年度は6工場に対しCSR監査を実施しました。指摘された項目に関して仕入先および工場と連携して、是正計画を練って改善に取り組みました。また国内3工場に対し自社監査を実施しました。

▶ 監査項目

1. 児童および未成年労働
2. 強制労働
3. 安全衛生
4. 結社の自由
5. 差別
6. 懲戒慣行
7. 労働時間
8. 賃金
9. 環境
10. コンプライアンス

▶ 国別実施工場

タイ2/ミャンマー2/バングラデシュ1/カンボジア1

▶ アイテム別の不適合比率

| 生産アイテム | 2018年度監査 実施工場数 | 不適合が全項目の 10%未満 | 不適合が全項目の 10%~19% | 不適合が全項目の 20%以上 |
|--------|-------------------|-------------------|---------------------|-------------------|
| ウェア | 4 | 3 | 1 | 0 |
| シューズ | 0 | 0 | 0 | 0 |
| アクセサリ | 2 | 1 | 1 | 0 |
| 計 | 6 | 4 | 2 | 0 |

デサント・サプライヤーCoC

(取引行動規範)

当社の取引行動規範について、世界スポーツ用品工業連盟(WFSGI)の行動規範に基づき次の内容で決めました。

1. 法律の遵守
2. 労働条件
 - ① 強制労働
 - ② 差別
 - ③ 組織及び団体交渉の自由
 - ④ 賃金
 - ⑤ 労働時間
 - ⑥ 権利と休暇
 - ⑦ 児童労働
 - ⑧ 健康と安全
 - ⑨ 嫌がらせあるいは虐待
3. 環境
4. 地域社会との係わり合い
5. 企業内の独自の規範
6. 証明
7. 遵守

2011~2018年度累計

▶ 国別実施工場

中国68/ベトナム21/ミャンマー13/インドネシア8/タイ4/
バングラデシュ2/カンボジア1/日本4 合計121

▶ アイテム別の不適合比率

| 生産 アイテム | 年度別 工場数 | | | | | | | | | 不適合が 全項目の 10%未満 | 不適合が 全項目の 10~19% | 不適合が 全項目の 20%以上 |
|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|----|-----------------------|------------------------|-----------------------|
| | 2011 年度 | 2012 年度 | 2013 年度 | 2014 年度 | 2015 年度 | 2016 年度 | 2017 年度 | 2018 年度 | | | | |
| ウェア | 11 | 19 | 11 | 14 | 10 | 11 | 12 | 4 | 51 | 29 | 14 | |
| シューズ | 1 | 2 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 3 | 5 | |
| アクセサリ | 0 | 5 | 4 | 1 | 2 | 1 | 1 | 2 | 10 | 5 | 1 | |
| 計 | 12 | 26 | 19 | 16 | 13 | 13 | 14 | 6 | 64 | 37 | 20 | |

各工場において、従業員の安全と健康を守る設備の数々



▲タイムレコーダー



▲安全装置付きミシン



▲医務室



▲消火器と緊急避難用フラッグ



▲飲料水



▲社員食堂

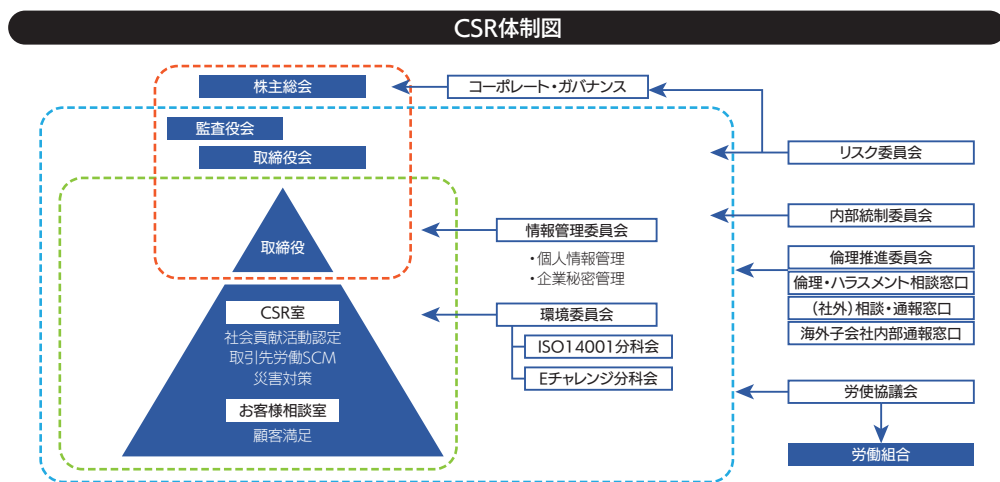
コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス

ステークホルダーの皆様の信頼にお応えするために、「コーポレート・ガバナンス」「内部統制」の体制を構築し、企業として持続性ある企業価値向上を目指すための取り組みを相互に連携させながら推進しています。

コーポレート・ガバナンス

企業理念である「すべての人々に、スポーツを遊ぶ楽しさを」の実現のために、法令や企業倫理に従い、誠実で公正かつ透明に事業活動を展開することが企業の社会的責任であると認識しています。コーポレート・ガバナンスをより機能させるために外的環境の変化に合わせて柔軟に体制や取り組みを進化させることが、継続的な企業価値向上において、経営上、最も重要な課題のひとつと考えています。

その実現のために「デサントグループ倫理綱領」「デサント倫理行動基準」を定め、消費者の皆様、株主の皆様をはじめ、お取引先様、地域社会、従業員など様々なステークホルダーとの良好な関係を引き続き構築して参ります。また、新たに取締役会も6名中2名を社外取締役とし、より透明性の高い経営体制のもと、株主総会、監査役会、会計監査人など法律上の機関も加え、継続的にコーポレート・ガバナンスの充実を図っています。



リスク管理

当社に重大な影響を与えるリスクの発生防止と、万が一発生した際の損害、影響の最小化、ならびに事業の継続性と業務適性の確保を目的に、「リスク管理規程」「リスク管理運用規則」を定めています。これらに則り、リスク委員会ではリスク全般の可視化を行い、予防と発生時の対策を毎年見直し、特に重要性の高いリスクを監視対象リスクとして対策の実施状況を担当取締

役が監視し、取締役会に報告しています。

2018年度の抽出リスクは43件、うち監視対象リスクは3件、重大インシデントにつながるリスクの発生はありませんでした。また、子会社におけるリスクについても同様に毎年抽出し、グループ全体のリスク管理強化を図っています。

情報管理

「企業秘密管理規程」「企業秘密管理基準」を制定するとともに、内容をわかりやすくした「企業秘密ガイドブック」を全管理職に説明のうえ、管理・徹底を図っています。また、デサントが保有する個人情報及び特定個人情報の適正な保護を実現することを目的として「個人情報保護規程」「個人情報保護規則」に方針を定めています。毎年、一斉に「全社の個人情報棚卸し」を実施することで、個人情報の属性・件数・管理者・保管状態などを把握します。EU一般データ保護規則※の施行に伴って、個人情

報保護方針（プライバシーポリシー）を改定しています。

2018年度における機密情報の漏洩はありませんでしたが、お客様情報の漏洩が2件、紛失が1件発生しました。不正に利用された等の連絡は入っていませんが、お客様への誠意を持った対応と今後の再発防止に努めてまいります。

※EU一般データ保護規則（General Data Protection Regulation:GDPR）:EU（欧州連合）域内での個人データ保護に関する法律。2018年5月から施行され、違反すると多額の制裁金が課せられる。

コンプライアンス

企業活動において根本となる姿勢を「デサントグループ倫理綱領」に定める一方で、社員一人ひとりが、働く上で指針とすべき基準を「デサント倫理行動基準」として定めています。これらの順守を推進するために倫理推進委員会を設置し、健全で品格に富む企業風土の醸成に努めています。職制を通じた解決が難しい問題、あるいはほかの社員の倫理に反する行動などの相談に対処するため、日本国内従業員用には、相談しやすい環境整備を目的に保健師をメンバーに加えた「倫理・ハラスメント相談窓口」、社外には法律事務所を相談窓口として設けています。また、海外子会社従業員向け相談窓口を多言語対応にて外部に新設し、内部通報制度の強化を図っています。そのほかにも、デサント、デサントジャパンでは3カ月に一度、デサントコリアは毎月、入社した従業員を対象に、コンプライアンス面を中心としたCSR研修を実施しています。



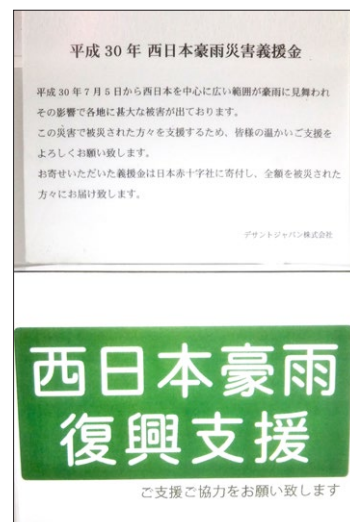
▲2019年1月28日に実施したコンプライアンス研修

▶2018年度 倫理推進委員会活動

| | |
|-------------|--------------------------------|
| 開催 | : 5・7・8月 |
| 主な内容 | : 各部署の倫理的問題に対するルールづくりと全社研修の立案 |
| 今年度のテーマ | : ハラスメントをなくすには……働きやすい職場環境の構築 |
| 分科会 | : 2つのグループに分かれてテーマについて検討。開催は随時。 |
| 10月 | : 販売員向け「ハラスメント事例集」掲示 |
| 11月～2019年1月 | : 従業員向けコンプライアンス研修を実施 |

災害対応

2018年は、日本国内で発生した「平成30年7月西日本豪雨」に対して、株式会社デサントとして日本赤十字社に義援金500万円を寄付するとともに、同7月に開催した従業員家族向け社内セールにおいても義援金を募り、被災地の早期復興に向けての支援活動を行いました。



▲西日本豪雨募金箱パネル

従業員の安否確認

日本国内のデサントグループでは、セコム安否確認システムを導入しています。震度5強以上の地震発生時には自動的に、また、そのほか台風・集中豪雨などの自然災害時には必要に応じて安否確認メールを発信し、早期の安否確認と必要な初期支援、対象者への緊急メールの一斉配信など、事業に従事していない時間でも従業員の安全・安心を第一に考えています。

また、このシステムは緊急時の連絡ツールとしても使用可能であり、対象者への緊急メールの一斉配信や管理職など一部階層への連絡手段として利用します。今後は、昨今の海外事情などを勘案し、海外駐在員、海外出張者まで対象を拡大することも視野に入れて体制整備を進めています。

従業員とのかかわり

グローバル化に対応した人材育成、女性のさらなる活躍を推進する「才職健美推進委員会」など、人材育成およびダイバーシティを中心に、新たな施策に取り組んでいます。

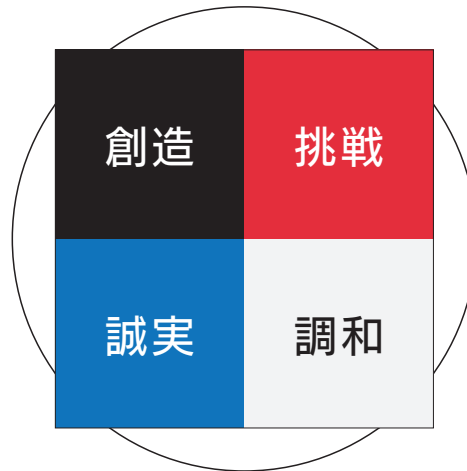
創業の精神「SPIRIT OF DESCENTE」に基づく行動指針

創造/CREATION

豊かな発想力は、いつの時代でも発展の原動力である。
センスを磨き、日々の仕事に明確な判断を下せる力を養え。

誠実/INTEGRITY

信頼するものには徹底して任せる。
人の誠意に対しては、人の誠意で応えよ。



挑戦/CHALLENGE

変化の時にこそ、チャンスがある。
新しいものを創り出す仕事なら失敗も覚悟のうちに入れよ。

調和/HARMONY

人間が人間を知って初めて商売は成り立つ。
力を集めて前向きに“協走”せよ。

2018年度の教育・研修内容

2018年度は、「管理職の世代交代」「海外事業の推進を支援」「専門知識・思考能力を高める」を目的に研修体制を強化しました。さらに、社員が自ら進んで学び、キャリアアップすることも支援しています。

研修メニューのポイントは、1) マネジメント力の強化研修(第4期)、2) グローバル人材の育成、3) ビジネス強化(職能)研修、4) 女性活躍推進(ダイバーシティ推進担当)、5) デサントアカデミーでのミニMBA講座の開催、です。

▶2018年度デサントアカデミー(ミニMBA)の概要

2018年度は、グロービス経営大学院を第1期生として修了した4名が講師を務め、「マーケティング&オペレーション戦略」「アカウントティング」など全8講座を開催しました。各講師が習得した知識(新たな視点・思考)を会社全体の知識とし、今後のセールス活動・マーケティング活動などに活かしていきます。

「マーケティング&オペレーション戦略」で用いた資料の一部▶



「スポーツエールカンパニー」に認定

デサントジャパン

2018年12月20日、デサントジャパン株式会社が「平成30年度 スポーツエールカンパニー」に認定されました。これはスポーツ庁が、社員のスポーツ活動の支援・促進を行う企業を広く周知し、ビジネスパーソンへのスポーツ実施率の向上と、従業員の健康管理に取り組む企業の社会的評価の向上を図るものです。

同社が推進している、社員運動会や、ひと駅歩こう運動、はかろう運動(食事や運動などの生活習慣を見直し、日々の体重変化を確認する)の実施、フィットネスラウンジでの社員向けプログラム提供といった、従業員の健康増進を意識した積極的な取り組みが評価されました。



▲認定ロゴマーク

「健康経営優良法人～ホワイト500～」に3年連続で認定

デサント

2019年2月21日、株式会社デサントは、社員の健康管理を経営的な視点で捉えた「健康経営」の取り組みが認められ、健康経営優良法人認定制度（主催は経済産業省と日本健康会議）による「健康経営優良法人2019（ホワイト500）」に3年連続で認定されました。主な施策は次のとおりです。

1. 東京・大阪オフィスに健康管理室を設置し保健師5名、衛生管理者1名が常駐し嘱託産業医4名（内、精神科医2名）と共に全従業員の健康管理を進めています。
2. 健康診断は労働時間や雇用期間に関係なく、全従業員を対象に実施しています。特に、がん検診の受診を強化し、早期発見・早期治療につなげています。
3. 健康増進事業として「ひと駅歩こう」「はかろう」運動や全社運動会を開催し、社員間のコミュニケーション促進も図っています。



▲認定ロゴマーク



▲認定証

デサントグループ運動会を継続

2017年度に20年ぶりに開催されたデサントグループ運動会は、社長直轄である企業理念推進委員会、新入社員などで実行委員会が構成され、企画・運営・準備などすべて従業員による手づくりの運動会です。2018年度は日本全国からグループ全社の従業員、家族など前回は大きく上回る総勢305名が集まり、「スポーツを遊ぶ楽しさ」と「カラダを動かす喜び」をみんなで共有できた一日となりました。



▲従業員も家族も、大人も子どもも笑顔になる玉入れ



▲綱引きは、チームの一体感が勝負の決め手

ダイバーシティ

競争力のある企業になるためには、全社員のレベルアップが必要不可欠です。年齢を問わず、意欲を持って活躍できる人事制度、職場環境の構築、整備を推進していきます。ダイバーシティに関する研修など諸施策を以下にご紹介します。

● 「才職健美」推進委員会

「2020年までに女性管理職を15名(15%)以上、女性基幹職を30名以上にする」という数値目標のもと、女性の活躍を推進する委員会です。2018年度の活動目的は、「女性管理職候補育成の具体策の検討・立案・社内広報」です。

● メンター・メンティ制度

基幹職昇格者が、管理職を担う準備を目的とした制度です。定期的な面談を通して、課長職を担うために必要な知識や心構えなどについてメンターからアドバイスを受けます。

● リーダーシップ・ディベロップ研修

エリア入社女性社員がさらに高いレベルを目指すために、期待される立場や求められる能力を認識し、仕事を通じて自律的な能力開発・キャリア開発につなげていきます。

内容は演習・講師による資質評価・行動計画の策定などが主です。

● 「1UP研修」

働く地域を限定しているエリア入社女性総合職を対象に、2018年度は能力開発(スキルアップ)を目的として外部の公開型研修へ派遣し、仕事の段取り力・生産性向上をテーマとした講座を受講しました。

● シニアスタッフスタート研修

再雇用がスタートするタイミングに会社の現状を知り、定年退職・再雇用制度・60歳以降の社会保険の知識などについて、研修を通して深めています。

● 両立支援

<女性社員>

育児両立支援からキャリア支援へと方向転換しました。産前ガイダンスの実施、復職準備として「CACHATTO(カチャット:テレワークのプラットフォームのサービス名)」の利用を提供するなど、復職前面談の運用見直しによってキャリア支援のウェイトを増やしました。

<男性社員>

育児休職の取得を促進するために、2018年10月より育児休職規程の一部を改定し、休職開始後5日間は有給扱いとしました。

第10回 全国SCロールプレイング大会

デサントジャパン

デサントジャパン株式会社に所属する、約1,000名に及ぶ販売職スタッフ(セールスコーディネーター/SC)は、お客様との大切な接点として日々、活躍中です。2009年から続く本大会は「顧客に繋がる接客～わたしもあなたも楽しい時間の創出～」を今年度のテーマに掲げ、全国の店舗から選ばれた43名による予選を経て、2018年11月14日に大阪で開かれた16名での決勝大会に進み、優勝1名・準優勝1名・特別賞2名・新人賞1名という結果となりました。



▲決勝大会に出場した16名の表彰

上海デサントでの取り組み

上海デサントでは毎年、優秀社員を表彰し、デサントのモノづくりの原点である日本国内工場の視察や日本文化との触れ合いにより、デサントグループの一員としてのロイヤリティ向上に取り組んでいます。

初日に見学した「デサントアパレル吉野工場」は2年前に移転・新築され、敷地面積は4000㎡近くある従業員約50人の工場です。移転により、水着やトレーナーの短納期対応やカスタムオーダーなどの小ロット生産能力が拡大されました。工場見学では、型紙作成、裁断、縫製から最終の品質検査に至るまで詳細に説明いただき、わずか1点の製品を作り出すにも多くの機械を使って納期に間に合わせるなど、難易度の高い工程を目の前で見ることができ、とても勉強になりました。

4日間にわたる、非常に大切に忘れられない機会になりました。ほかの皆さんも頑張っており、また次の優秀社員表彰で貴重な体験を楽しんでほしいです。

2019年4月23日

上海デサント 連麗一曼



▲デサントアパレル吉野工場(左)を含む4日間の優秀社員表彰ツアーに参加

お客様とのかかわり

持続可能性への挑戦：「モノを創る力」と「売り場を創る力」

デサントの競争力の源泉はスポーツウエアの開発力です。お客様のご要望を聞き、それにお応えするために技術と発想力で、常に新しい商品を開発します。商品をお届けする売り場は、単なる販売の場ではなく、お客様との重要な接点であり、デサントからの情報の発信地でもあります。デサントは新鮮で、驚きがあり、楽しく買いたい物ができる、そんな売り場を創ります。「モノを創る力」と「売り場を創る力」をこれからも磨き続け、お客様の豊かなライフスタイルの実現を目指していきます。

モノを創る力

ISPOアワードGold Winnerを3年連続で受賞

デサント

2019年1月、ドイツで開催された「ISPO(イスポ)ミュンヘン2019」で、『デサント』ブランドの2つの商品が、それぞれISPOアワードGold WinnerとISPOアワードWinnerを受賞しました。同ブランドでのGold Winnerの受賞は2017年から3年連続です。

今回の受賞は、Gold Winnerが「水沢ダウンジャケット」の2019年秋冬の新モデル「ヴァリアント」で、水分の含浸を防ぎ防水性を実現しました。「水沢ダウンジャケット」では3度目の受賞です。Winnerは「スイススキー レプリカライトウェイトジャケット」で、従来の中綿ジャケットよりも30%の軽量化に成功しました。

▶ ISPOアワードとは

約2,800社が出展する、世界最大規模のスポーツ用品の国際総合見本市「ISPO」において、コンセプト・デザイン・技術・環境への配慮などの項目について、厳正な審査により選ばれた、優れた商品に贈られる賞。



◀デサント
「水沢ダウンジャケット
ヴァリアント」
(アーバン部門アウターレイヤー
インシュレーテッドカテゴリー)



◀デサント
「スイススキー レプリカ
ライトウェイトジャケット」
(スノースポーツ部門アウターレイヤー
[2レイヤー]コンセプトカテゴリー)

「デサント・デザインアワード」を継続して実施

デサント

開発力とデザイン力の向上を目的とした社内コンテスト「デサント・デザインアワード」の第7回を2018年7月に、第8回を同年12月に実施しました。選考方法は、まず、ファッション誌・スポーツ専門誌などの編集者やスタイリストの方々が対象の「デサントプレス会」に出展した各ブランドより十数点のアイテムを自薦します。次いで、プレス会のご来場者に、スポーツアイテムとしての機能性・新規性・トレンド性などの観点で、最もデザインが優れたアイテムに投票していただき、最優秀賞と優秀賞を決定する、という内容です。

▶ 第7回受賞作品 (2018年7月開催)

最優秀賞



デザイナー：堀内 久仁子
ブランド：『ルコックスポルティフ』
商品名：lecoq sportif+
NAO OKAWA
(ルコックスポルティフ
プラス ナオ オオカワ)
リバーシブル ジレ ポンチョ

優秀賞



デザイナー：近藤 敏雄
ブランド：『デサント』
商品名：ISOLATION BOA
INSULATED JACKET
(インソレーションボア
インシュレーテッドジャケット)

▶ 第8回受賞作品 (2018年12月開催)

最優秀賞



デザイナー：佐藤 英則
ブランド：『デサント(ゴルフ)』
商品名：g-arc pants X-type
(ジーアーク パンツ
エックスタイプ)

優秀賞



デザイナー：伊藤 良太
ブランド：『ルコックスポルティフ』
商品名：3in1 Spring Coat
(スリーインワン
スプリングコート)



▲第8回アワード開催時の「デサント プレス会」



▲第8回アワードの受賞者。
左側 伊藤良太、右側 佐藤英則



株式会社デサント
R&Dセンター 課長
大石 晃三

第2回 品質事故情報展を開催

～事故から何を学ぶのか～

株式会社デサントおよびデサントジャパン株式会社は、2018年10月25日・26日に大阪オフィスで、11月1日・2日に東京オフィスで「第2回 品質事故情報展」を開催しました。この情報展は、2017年に引き続き当社商品で発生した最近の事故事例の発生経緯、原因および対策を振り返り、実際の商品や解説パネルを使用して展示し教訓にすることで、再発防止と今後のさらなる商品品質の向上に向けて一丸となって取り組むことを目的にしています。今回も、当社の「ものづくり」に携わる関係者として取引先である商社、素材メーカーの方々に加え、社内のMD（マーチャンダイザー）、デザイナーや仕入れ担当者を対象に開催しました。開催に携わった株式会社デサントR&Dセンターの大石課長にインタビューしました。

開催の目的は？

品質事故の要因は、大きく①企画設計不良、②生産不良、③技術限界、④お客様と作り手の認識差の4種類に区分できます。デサントは多くのブランドを取り扱っています。担当者は担当ブランドの発生事故についてのみチーム内で共有し改善につなげていますが、他のブランドで発生した事故事例も共有することで、グループ全体での品質向上に役立てようとしています。

加えて、商社・素材メーカーの方々にもご参加いただき、品質管理の重要性を共有し品質向上と一緒に取り組みたいと考えています。

1回目の反省を踏まえて、改善点は？

運営方法・展示方法・内容のそれぞれで改善しました。

運営方法では、社内向けと取引先様向けの開催日を分けて、取引先様と、より踏み込んだ打合せを行い、増加傾向にある②の生産不良の改善を図りました。

展示方法では、上記4つの要因を事故内容ごとにまとめて分析し、再発防止につなげやすくしました。内容については、前回では展示しなかった③技術限界と④お客様と作り手の認識差の要因を加えて、よりお客様の立場での「ものづくり」や「商品特性や取り扱い方法の伝え方」につなげるようにしました。

また、業界で新たに発生している「サイレントチェンジ」^{*1}問題や消費者庁による「打消し表示」^{*2}への監視強化についての情報を加え、将来のリスクも共有しました。

品質事故ゼロに向けて

生産不良による品質事故をなくすために、生産の各工程でのチェックポイントを設定し仕入先様での実施をお願いするとともに、必要に応じて品質管理監査を実施しています。今回はこのチェックポイントを掲示し、品質管理向上の具体的な方法を共有しました。

来場者様からの評価は？

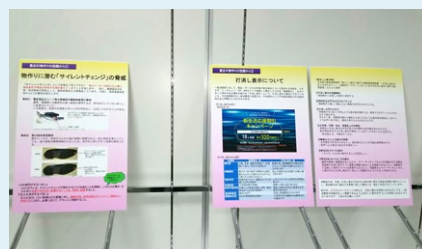
他社事例まで展示された品質事故情報展は珍しく、他社事例の多くが自社でも発生する可能性があるため非常に参考になり、ミスを事前に防ぐ効果が見込まれるとの評価を得ています。継続開催を望む声も、多くいただきました。

^{*1} 発注元のメーカーが知らない間に、発注先の企業が許可なく、いつの間にか、静かに材料の素材や仕様を変更してしまっていること。重大な事故につながる恐れがある。

^{*2} 商品を販売する際の、品質や価格といった訴求点を大きく目立たせた強調表示の「例外」を示したものの。



▲解説パネルに見入る、ご来場の方々



▲新たなリスクとなる「サイレントチェンジ」(左パネル)と「打消し表示」(右パネル)

「DESCENTE OSAKA」で世界一、速いウェアを創る

デサント



▲「DESCENTE OSAKA」の外観

2018年7月、スポーツアパレルの研究開発拠点として大阪・茨木市に「DESCENTE INNOVATION STUDIO COMPLEX OSAKA」を開業しました。そのコンセプトは“世界一、速いウェアを創る”です。「速い」という言葉に

は、競技で勝つための「スピード」を追求したウェアや、グローバルマーケットで他社に「先駆ける」ウェアを開発する拠点にしたい、という想いを込めました。

担う役割は「基礎開発・グローバル戦略素材開発・製品開発・品質開発・知財戦略」です。クライマートや人工降雨室などの設備により、これまで大阪オフィスで行っていた研究開発の機能をさらに強化し、機能の開発、製品化、製品の評価・検証という一連の工程を完結させ、高性能・高品質な商品をスピーディーに生み出すことを目指しています。

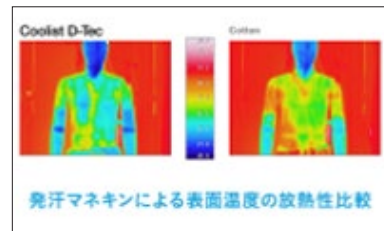
同施設はすでに、気化熱を活用した独自の新クーリング素材「Coolist D-Tec(クーリスト ディーテック)」を開発し、2019年4月より複数のブランドで商品展開を始めました。



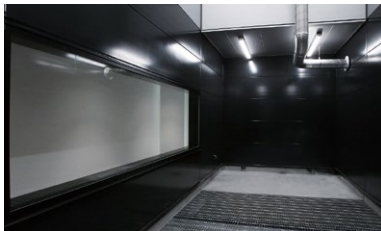
▲スポーツパフォーマンススタジオ



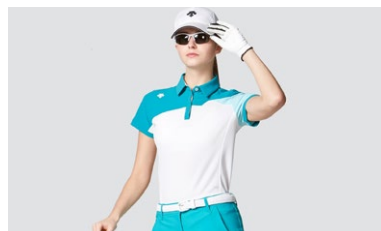
▲クライマート(人工気象室)



▲「DESCENTE OSAKA」のクライマートにおける試験では、新素材「クーリスト」ポロシャツ(左)はコットンポロシャツ(右)より表面温度が低い



▲人工降雨室



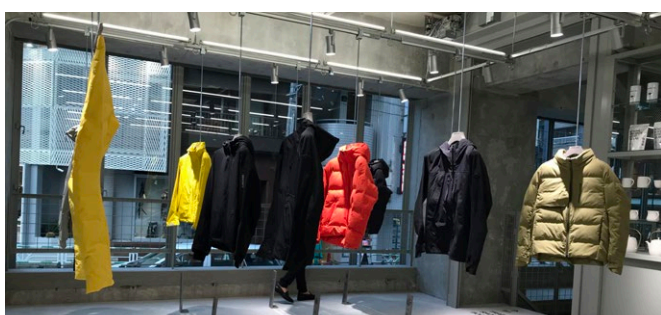
▲「DESCENTE クーリスト半袖シャツ」(レディス)

売り場を創る力

旗艦店でのアーカイブ活用

デサントジャパン

2019年2月6日、『DESCENTE』ブランドの旗艦店「DESCENTE TOKYO」を東京・渋谷の明治通り沿いにオープンしました。2階の「DESCENTE BLANC」では、「DESCENTE オルテライン」「DESCENTE ポーズ」の各商品の展開に加え、アーカイブの活用例として歴代の水沢ダウンを受賞盾などと一緒に展示し、「モノ創り」の開発ストーリーもアピールしています。



▲2008年に誕生した水沢ダウンを、「ISPOアワード」などの受賞歴とともに展示

第31回「全国優秀店舗」表彰式

デサントジャパン

すべてのお客様に満足していただける売り場創りを目指す、デサントジャパン株式会社に所属する約1,000名に及ぶセールスコーディネーターの能力向上やモチベーションアップを目的に、毎年、開催しています。全国およそ350の売場から、店頭売上高や予算比、お客様へのアプローチや提案、お客様からの評価などの項目を基に、優秀店舗として14の売場と新人賞1名を選出し、表彰しました。



▲2018年5月24日に行われた表彰式

地域社会とのかかわり

スポーツを通じたイベント活動やキャリア教育により、未来を担う子どもたちや学生、地域住民の皆様の身体と心を豊かにし、健全なライフスタイルの創造に貢献しています。

スポーツ体験型プログラム

「すこやかキッズ スポーツ塾」2018年度の活動



2018年は「育む」ことを主眼に複数回の授業を行う「講座型」を新たに取り入れました。加えて、この「講座型」に参加した児童が「合宿型」にも参加するなど、連携・発展が可能な体制も取り入れ、よりスポーツの楽しさを体験する機会を創出しました。特に「合宿型」では、自然と人間社会が共生する取り組みについて、体験しながら学習する機会をプログラムへ組み込む企画を、NPO団体などとの連携や、ボランティア参加のシニアスタッフなどの協力を得ながら実施しました。

今後も引き続き、求められる状況に応じながら、本活動を通して企業価値の向上に努めていきます。

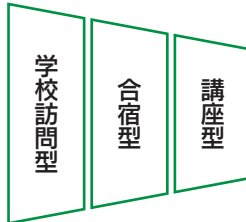
2017年まで

教

多くの子どもに楽しさを
教え運動の魅力を伝えました。

短期指導型

2018年は



おしえ から はぐくむ

スポーツを愛する
すべての人々の想いに
アシスト続けます

育

様々な運動を通して
子どもの成長過程を
大事にし応援しました。

中期指導型

講座型：ホッケー教室



▲塾長の松原尚子氏

概要

主催者：豊島区 子どもスキップ、
すこやかキッズスポーツ塾実行委員会
後援：豊島区
協力：東京ホッケー協会、デサントジャパン株式会社
塾長：松原 尚子氏
(アテネオリンピック 女子ホッケー日本代表)

日程と場所

池袋本町小学校：5月9日～6月13日まで
5回実施、登録児童数57名
池袋小学校：6月20日～7月18日まで
5回実施、登録児童数25名
のべ参加児童数：324名

▶総評

これから競技人口を増やしたいという各競技団体をサポートしながら、スポーツ体験の機会の提供を目的に、2020東京オリンピック種目であるホッケーを広めたいという思いを持つ東京ホッケー協会と連携し開催。豊島区が行う放課後教室“子どもスキップ”のプログラムの一環として実施し、のべ324名が、放課後にカラダを動かし競い合う体験をしました。この取り組みは同協会が主体となり、継続して実施中です。



▲池袋本町小学校



▲池袋小学校

合宿型:2018 サマーキャンプみなかみ

| 概要 | 日程と場所 |
|---|--------------------------------|
| 主催者: すこやかキッズスポーツ塾実行委員会 | 7月28～30日: 群馬県みなかみ町 |
| 後援: スポーツ庁、東京都豊島区、群馬県みなかみ町、 みなかみ町教育委員会、東京ホッケー協会、 群馬県ホッケー協会、みなかみ町ホッケー協会 | 月夜野緑地施設内運動広場 (ホッケーグラウンド) ほか |
| 協力: デサントジャパン株式会社 | 参加児童数: 43名 |
| 運営協力: 特定非営利活動法人 東京都キャンプ協会 | |
| 塾長: 松原尚子氏 (アテネオリンピック 女子ホッケー日本代表) | |

▶総評

東京都キャンプ協会と連携し、レクリエーションを通して団体生活のルールを学ぶ機会となるよう、プログラムを作成しました。参加者は、地元スポーツ少年団との交流や指導者のサポートも受けながら、あかぎ国体で使用した広大なホッケーグラウンドにおいて、様々な気象条件のもと、競技の楽しさを体験しました。さらに清流(利根川)での楽しく冒険的なラフティング、赤谷湖周辺のハイキングやユネスコエコパークに関するレクチャー、町の水資源を活用するヤマキみなかみ工場の見学など、ほかでは得られない豊富で質の高い学びの機会となりました。



▲チームビルディング



▲ホッケー教室



▲ラフティング



▲キャンプファイアー



▲フィールドワーク



▲ヤマキみなかみ工場を見学

学校訪問型

| 概要 | 日程と場所 |
|-----------------------------------|--|
| 主催者: すこやかキッズスポーツ塾実行委員会 | 12月3日: 香美町立兎塚(うづか) 小学校 香美町立村岡(むらおか) 小学校 |
| 後援: スポーツ庁、兵庫県美方郡香美町、 香美町教育委員会 | 12月4日: 香美町立射添(いそう) 小学校 香美町立小代(おじろ) 小学校 |
| 協力: デサントジャパン株式会社 | 参加児童数: 163名 |
| 塾長: 田中 光氏 (アトランタオリンピック 体操日本代表) | |



▲塾長の田中光氏

▶総評

地方では、過疎化により参加児童が少ない場合もありますが、スポーツ選手が訪れる特別な機会となることも多く、今回の訪問も歓迎していただけました。普段は目にする機会が少ないアクロバティックな模範演技の披露をはじめ、「夢をあきらめないで挑戦する」というメッセージが随所に取り入れられた、塾長の田中光氏による楽しい授業を163名の児童が体験しました。



▲兎塚小学校



▲村岡小学校



▲射添小学校



▲小代小学校

中山間地域での遠隔授業の実施 (ICT×キャリア教育プロジェクト)

当社は、静岡県藤枝市教育委員会が主催し、静岡大学教育学部 塩田真吾研究室の協力により、大人との触れ合いが少ない同市の中山間地域の子どものためのキャリア教育を目的としたプロジェクトに参画しました。当社の研究開発拠点「DISC OSAKA (ディスク オオサカ)」と藤枝市の中学校をICT (テレビ電話システム) でつなぎ、「スポーツの楽しみ方・関わり方を考えてみよう」というテーマのもと、生徒たちが事前の授業で作成した「たくさんの人がスポーツを楽しめるイベントとそれに合わせたウェアやグッズ」についてのアイデアを発表。当社社員がそれに対するコメントや感想を述べ、子どもたちにスポーツビジネスの魅

力を伝えました。引き続き、このような地域の社会課題の解決につながる活動を行っていきます。



▲テレビ電話システムによる遠隔授業



▲自分たちのアイデアが詰まったウェアを発表する

香港デサントでの取り組み

香港デサントでは、2018年度より、高齢者福祉施設を従業員が訪問し、一緒に簡単な運動を交えたゲームなどでコミュニケーションを図り、持続性ある地域社会との共生に向けた取り組みが始まりました。



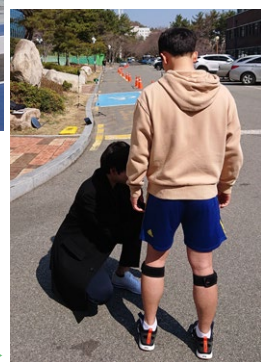
「DISC BUSAN」でグローバル競争力のあるシューズを開発



▲「DISC BUSAN」の外観



◀3Dモーション分析システム



PNUと共同で、運動時の
人体の動きを測定▶

2018年10月17日、シューズの研究開発拠点としてDESCENTE INNOVATION STUDIO COMPLEX BUSAN (デサント イノベーション スタジオ コМПレックス プサン:以下、DISC BUSAN [ディスク プサン]) を韓国・釜山に開設しました。

「DISC BUSAN」は、「Innovate For Your Best (イノヴェイトフォー コア ベスト)」というコンセプトのもと、科学的実験と研究開発により、製品開発の中核になる新たな技術と、ランニングシューズを中心としたハイパフォーマンスシューズとしての信頼

性を構築し、グローバル競争力を備えたシューズの開発を実現していきます。

また、産学共同事業の一環として、PNU (Pusan National University:釜山国立大学) と移動データベース構築の取り組みを始めました。これは、PNUの約250人の学生に対する運動測定を実施し、どのように歩行・走行・ジャンプするのかを調査します。その結果をデータベース化し、ランニングシューズの各種開発研究の基礎データの収集を行うとともに、今後はデータの分析をPNU研究メンバーと共同で実施します。

デサント코리아での取り組み

2013年に設立されたデサントスポーツ財団は、韓国では初めてのスポーツ専門の非営利団体です。持続可能性のある本格的なスポーツサービスを国民に提供するために、「誰もがスポーツを楽しめる環境づくり」を使命に、有望なスポーツ選手の支援、スポーツ施設の建設、スポーツ活動の支援など、スポーツコンテンツを活用した様々な社会貢献事業を続けています。

▶ MOVE SPORT PARK

スポーツ施設の新設によって、より多くの人々がスポーツを楽しむ環境の改善に取り組むプロジェクトです。今までに、野球場・フットサル場・総合スポーツ施設など6施設が建設されています。加平郡(カピョングン)、龍仁市(ヨンインシ)およびソウル市内の蚕室(チャムシル)で、誰もが安全なスポーツ活動を身近な場所で手軽に楽しめるようにしました。



▶ MOVE SPORT

学校生活におけるスポーツ活動の支援により、青少年の健康増進と健全な精神の育成を目的とするプロジェクトです。新しいスポーツプログラムの開発を行い、教師のトレーニングやコーチングの支援を行っています。2018年には、ソウルと京畿道(キョンギド)地域の中高校130校を対象に体育体験の機会を増やすためのプログラムを実施しました。



▶ MOVE KIDS

子どもたちのスポーツを楽しむ機会の提供と、スポーツを通じた健康的なカラダの成長と健全なココロの成長を目指すプロジェクトです。2018年には社会福祉施設の子ども100人を対象に、デサントスポーツ財団が建設したムーヴフットサルパークにてサッカー教室を開催しました。ムーヴFCサッカー教室では、子どもたちにプロサッカー観戦の機会を提供するとともに、サッカー選手との交流も行いました。



▶ MOVE SHARE

全国の社会福祉施設や非営利スポーツ団体を通じ、スポーツを楽しむ機会の少ない子どもや青少年を対象に、体験格差を解消するとともに社会性への適応を支援するプロジェクトです。スポーツ用品の支援やプロスポーツの教育・体験の機会を提供し、2018年は20,555人が参加し、25の社会福祉施設を通じて1,340のプログラムが実施されました。



DESCENTE



コーポレートシンボルマークの由来

DESCENTEとは、フランス語で「滑降」の意味。
スピリットマークは、スキーの基本技術である直滑降、斜滑降、横滑りを表現しています。
つねに最もすぐれたものに目を向け、時代の要求を先取りし、
積極的に製品化していく果敢なデサントスピリットのシンボルです。



コミュニケーション・オン・
プログレス

国連グローバル・コンパクトの原則の実践
状況および国連の様々な目標の支持につい
て、この**コミュニケーション・オン・プログレス**
を通じて報告しています。

内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。

本レポートに関するお問い合わせ

株式会社デサント CSR室

TEL:06-6774-0327/FAX:06-6774-2605

当社CSRサイト

<http://www.descente.co.jp/jp/csr/>